

海外視察団

マイセン会 —22年間の活動—

佐伯 謹吾

SAEKI Kingo

(株)東京設計事務所



第12回NO-DIG国際会議は1995年9月19日から21日までの3日間、ドイツのドレスデンで開催されました。これに合わせてドイツ、スペイン、ポルトガルをめぐるJSTT NO-DIG'95欧州調査団が総勢33名で結成され、調査・観光・遊びの楽しい旅となりました。

国際会議が開かれたのは、ベルリンの壁崩壊から始まるドイツ統一（再統一）から5年余り後でしたが、ドレスデンには第二次世界大戦の爆撃の爪痕が残っており、破壊され瓦礫となった往時の建築物の材料を組み合わせて復元作業が行われていました。また、期間中訪れたベルリンでも、東西冷戦時代の影響からか、ブランデンブルク門の西側と東側では街の明るさが異なっているように感じられました。

国際会議の会場となったホールは3,000人は入ろうかという大ホールで、ここで開会式、論文発表などが行われました。開会式では当時のJSTT会長の遠山啓氏がNO-DIG国際貢献賞を授与されました。国際会議では調査団からも何人かが論文発表されたようですが、開会式終了後、調査団一行の大部分は展示会場や各人予定の行動に移り、国際会議に残った方は少数のようでした。

会議は日本語でも同時通訳されましたが、会議の途中で日本人参加者が少ないため、同時通訳の必要があるかと聞かれ困ったと、団長を務められた大柿氏（株）小松製作所）は嘆かれていました。

展示会場ではプロファイルを使った管きよの補修工法などが展示、実演されており、かつて北欧でこの工法を調査したことがあるY氏が解説してくれましたが、当時すでに開発されていた日本の同種の工法の方が、技術的に勝っていた印象を受けました。

調査団が宿泊したホテルはドレスデンを流れるエルベ川右岸にあり、近くのアウグストス橋を渡った対岸にはツヴィンガー城、ゼンパー・オーパー（歌劇場）、聖母教会などの観光名所があり、落ち着いて会議に出

席できる雰囲気ではありませんでした。

何人かで、ゼンパー・オーパーへオペラ鑑賞にも繰出しました。リヒャルト・シュトラウスの歌劇が上演されていましたが、歌劇そのものより格式ある歌劇場や荘厳な内部の雰囲気に圧倒され、フルトヴェングラー、ワルター、ベームなどの名だたる指揮者がこの場所に立ったと思うだけで、興奮したことを覚えています。

一行は30歳代後半から50歳代の働き盛りで、皆さん活動的であり、ドレスデン滞在中はもとより、スペインのバルセロナ、マドリッド、ポルトガルのリスボン滞在中も、視察に組まれていた現場見学などに加え、ゴルフや観光、昼の街から夜の街まで、調査・視察のため精力的に動き回られていました。

後日、大柿氏は「本当は私だって一緒に行きたいのに、団長ならぬ断腸の思いで耐えていた」と言われていました。JSTTの機関誌「非開削技術」に掲載された氏の報告には、紳士的なお人柄そのものの一文で「ご一緒させていただいた皆様は大変快活活発で知識・見識豊かで楽しい旅であった」と記されていましたが、今にして申し訳ない思いがします。

調査団に参加した「働き盛り、遊び盛り」の何人かはその後も折々に集まり、「マイセン会」と称し、いまだに飲み会やゴルフなどを年に数回行っています。

●マイセン会の由来

視察団の解散と写真交換会を兼ねた集まりを契機として、自然発生的に気の合った仲間が集まりはじめ、いつの間にか「マイセン会」なる名前が付きしました。

名付け親はのちにJSTTの事務局長も務められたW氏です。氏によれば、本当はホテル前を滔々と流れるエルベ川にちなみ「エルベ会」としようとしたようですが、すでにこの名前の集まりがあるとのことで、ドレスデン近郊の陶磁器で有名なマイセンにちなみ「マイセン会」としたようです。彼は会議の途中にマイセ

ンを訪れ、お目当ての陶磁器を購入しようとしたのですが、高価であったため、代わりに「マイセンのお猪口」を求めたつもりでしたが、帰国後、奥方からエッグスタンドであると笑われたとのことでした。そんな思い出もあり「マイセン会」としたのかもしれませんが。「マイセン会」がいまだに継続しているのは彼の面倒見の良さ、周到緻密な配慮があつてのことです。



写真-1 マイセン会の集まり
(料亭 牡丹にて)



写真-2 故宮博物院にて

●マイセン会の活動

仲間の共通項は、快活活発で極めて知識・見識が豊かであることに加え、多趣味で好奇心旺盛、ノリが良く、芸達者ぞろいなことです。

自転車、水彩画、俳句、バードウォッチングなど仲間の趣味に引き込まれ、自分の趣味の範囲を広げている方もいます。

年数回の飲み会やゴルフなどもその時に応じて、場所、店、料理など、趣向を凝らして行われてきました。

●ゴルフ

最近千葉県、茨城県、栃木県などでやるが多くなりましたが、これまでは台湾、北海道、軽井沢などにも出かけました。

2001年11月に勝浦で行ったゴルフは、しし座流星群の出現が予想されており、皆若干の期待を持って出かけましたが、夜半に始まった天体ショーは壮絶でした。

太平洋に向かって開けたホテルの屋上やベランダで布団にくるまり、天空から絶え間なく降り注ぐ流れ星を歓声を上げながら観察しました。

台湾のゴルフも忘れられません。ゴルフクラブはゴルフ場のクラブを借りましたが、T氏、S氏の左用のものはメタルクラブが出始めた1980年代のもので、グリップはツルツルでカビが生えたものを拭いて貸してくれました。

途中、南国のスコールの中でずぶ濡れになりながら、それでも皆頑張って楽しみました。もちろんゴルフのみで終わるわけではありません。故宮博物院で中華文明の神髄ともいえる展示品の数々を鑑賞し、基隆から映画ロケ地としても有名な九份を訪ね、夜は台湾の酒と料理を堪能しました。

●小石川後樂園, 涵徳亭における絵手紙講習会

水彩画を趣味とするW氏の手ほどきで絵手紙の講習会なども行いました。絵筆を持つのは中学卒業以来という方が大部分でしたが、出来上がった作品はそれぞれに趣があり、技術屋の色彩感覚や手先の器用さ、感受性の豊かさに驚くとともに、軽いノリでこなしてしまう多芸ぶりにも感心させられました。

●健康管理

マイセン会の仲間も皆、還暦を過ぎましたが、相変わらず意気軒昂で、外見的にも年齢以下です。この原因は、前記のような生活ぶりにあるように感じています。さらに加えると皆さん大声であること、よく食うこと、姿勢が良いこと、何事にも真剣に取り組むことなどがあげられます。多分、高齢者の生き方としては理想に近いのではないかと感じています。

これまでマイセン会の活動に参加していただいた方も多いですが、現在活動中のメンバーは次のとおりです。

伊藤 啓	日産建設(株)
今中利信	アイレック技研(株)
加藤寿徳	大都工業(株)
川相 章	三井建設(株)
佐伯謹吾	東京都下水道局
津田洋史	積水化学工業(株)
水野 忠	サンワマトロン(株)
山城浜夫	足立建設工業(株)
和田 洋	(株)奥村組

所属は参加当時